

プロジェクト・リスト

ボツワナ

- 1 Botshelo Ke Mpho (生命は贈り物) と題する IEC 活動用ビデオの制作
- 2 教育当局と地域社会の指導者向け、HIV/エイズ予防活動をカンエ地方の学校教育の現場に含めていくことに関するアドボカシー (政策提言) 活動

ブルンジ

- 3 ブジュンブラ、ギタガ、ソゴズィでの HIV と STI の感染の減少

カメルーン

- 4 「若者エイズ・メディア」プロジェクト
- 5 「若者エイズ積極的行動」プロジェクト

コートジボアール

- 6 若者の間に誠実さと禁欲を (ロールモデルキャラクター: フィデルとアブスティーナ)
- 7 アボボ地域のタクシー運転手向け STI・HIV/エイズ予防のアドボカシー (提言活動)

エリトリア

- 8 サワ国立サービス訓練センターの陸軍司令官向け HIV/エイズ予防のアドボカシー (提言活動)
- 9 コンドーム使用に対する障壁の軽減

エチオピア

- 10 ナザレスの工場労働者向け HIV/エイズ予防のアドボカシー (提言活動)

ガンビア

- 11 銀行従業員向け HIV/エイズ予防のアドボカシー (提言活動)

ガーナ

- 12 PPAG 内部での HIV/エイズの自発的に受けるカウンセリングと抗体検査 (VCT) サービスの強化
- 13 クマン中央刑務所の受刑者たちとの STI・HIV/エイズ予防活動の提言活動

レソト

- 14 HIV/エイズと闘う女性たち: 女性用コンドーム普及活動

ケニア

- 15 若者の積極的行動変容の促進
- 16 ナクル地方の上級初等学校での HIV/エイズに関するピア教育を支援するよう教育省担当官と親に向けた提言活動
- 17 若者が利用しやすい VCT サービスの推進
- 18 「ジュアカリ」コミュニティにおける VCT
- 19 HIV/エイズの自発的に受けるカウンセリングと抗体検査 (VCT) サービスの強化

リベリア

- 20 HIV/エイズ予防と制御に関する政策立案者とオピニオン・リーダー向けアドボカシー (政策提言) 活動

マダガスカル

- 21 STI の予防と治療、HIV/エイズとともに生きる人々に対する偏見と差別の軽減

マラウイ

- 22 リロングウェ市、クチセカ、タツァバンゴの若者向け HIV と STI の予防
- 23 市場の若者に予防活動を広める

モザンビーク

- 24 鉱山労働者とその家族の間での HIV/エイズとともに生きる人々に対する偏見と差別の軽減

ナミビア

- 25 アムサティ地方の在学中および学校に行っていない若者ならびに出産可能年齢の女性を対象にした HIV/エイズ・STI の予防

ナイジェリア

- 26 民間部門での HIV/エイズ予防活動

ルワンダ

- 27 GACACA 所管と関連して国内主要刑務所での HIV/エイズ・STI 予防
- 28 受刑者向け HIV/エイズ予防活動

セイシェル

- 29 マヘ地方の若者を対象とした HIV/エイズ・STI 予防と制御

南ア共和国

- 30 ゴーテング、クワ・ズル・ナタル両州の中小零細企業向けの実行と提言計画

タンザニア

- 31 青少年に向けた HIV/エイズ予防のための行動変容のためのコミュニケーション

- 32 予防とケアの強化を通しての STI、HIV/エイズに対する社会の偏見との闘い
- 33 若者向けの HIV/エイズの自発的に受けるカウンセリングへのアドボカシー (提言活動)

ウガンダ

- 34 ムバララ市で短期的の仕事に従事している HIV/エイズと STI の感染者と影響を受けた若者のケアと支援

- 35 ギャップを埋める -- イガンガ地方の、危険にさらされているが予防の網にかかりにくい若者向けの HIV/エイズ予防

- 36 STI と HIV/エイズ予防を目的としたコンドーム使用を支援することを求めるミチャナ地区の宗教指導者向けのアドボカシー (提言活動)

ザンビア

- 37 ルサカとカブエの青少年を対象とした HIV/エイズ予防に向けたアドボカシー (提言活動)

ジンバブエ

- 38 スフィルハウス診療所 -- 自発的に受けるカウンセリングと抗体検査

地域事務局

- 39 加盟協会の実施するサービスの向上に向けた地域事務局の能力向上
- 40 HIV/エイズの蔓延に効果的に対応するための能力向上

- 41 IPPF アフリカ地域事務局内での HIV/エイズの提言活動に関する能力の開発と強化



日本HIV/エイズ信託基金

情報とサービスのギャップを埋める

IPPF は、日本政府、アフリカ地域事務局、そしてこれらの地域の加盟協会に対し、心より謝意を表したい。

アフリカ地域事務局
Madison Insurance House, 1st Floor,
Ngong/Upper Hill Road PO Box 30234,
00100 Nairobi, Kenya

telephone (254-020) 2720280/1/2
facsimile (254-020) 2726596
email info@ippf.org
web www.ippfaro.org



4 Newhams Row, London
SE1 3UZ, United Kingdom

telephone +44 (0)20 7939 8200
facsimile +44 (0)20 7939 8300
email info@ippf.org
web www.ippf.org

国際家族計画連盟 (IPPF) は、149 カ国の加盟協会が構成され、183 カ国で活動を展開する世界的ネットワークである。また世界で最大の任意の非政府組織 (NGO) として、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとライツの提供者であり推進者でもある。

UK Registered Charity No. 229476

Published in November 2005 by
International Planned Parenthood
Federation





国際家族計画連盟 (IPPF)

ビジョン

女性、男性、青少年すべてが必要とする情報とサービスが受けられ、セクシュアリティが人間の生活のなかでごく自然の大切な側面であり、基本的人権のひとつであることが認められ、そして個人の選択が十分に尊重され、汚名をさせたり差別をしたりすることのない世界を目指す。

使命

アドボカシー（政策提言）やサービスを通してセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとライツの推進運動を実施することにより、特に貧しい人や弱い立場にある人に重点をおいた個人の生活の質の向上を目指している。

不健康、望まない妊娠、暴力、差別を心配することなく性生活を楽しむ青少年すべての権利を守る。女性が妊娠を合法的かつ安全に停止させることを選択する権利をもつことを支援する。

性感染症 (STI) をなくし、HIV/エイズの蔓延と影響を減らす努力をしていく。

活動の基盤を成す価値観

セクシュアル/リプロダクティブ・ライツが国際的に認められた基本的人権であり、すべての人に保障されるべき権利であると確信している。

ジェンダーの平等の確立を目指し、個人の、なかでも若い女性の心身の安寧を脅かし、健康と人権の侵害が世にはびこることにつながる差別を撤廃するために尽力する。

多様性を尊重し、その組織運営と事業に青少年たちや HIV/エイズとともに生きる人たちの参加を得ることに重きをおく。

なすべき事柄を達成し、運動を推進する核心は、ボランティア精神であると考える。

さまざまな社会集団、政府、組織、資金援助組織と提携した活動に専心する。

はじめに

「情報とサービスのギャップを埋める」

アフリカは世界最大の HIV 蔓延の重圧に苦悩している。そのうち感染率が国民の 30%を超えるところが数力国あり、それらはサハラ以南に偏って集中している。国によって蔓延は横ばいか、あるいは悪化している。いずれにせよ、感染率が低下しているところとはごくわずかである。この持続的な高い感染率により、アフリカは重大な問題に直面している。

問題は、国民一般の感染率の高さだけでなく、その感染のパターンにもある。女性、なかでも 15 – 24 歳の若い女性は、自分が感染すること、他の人の世話をする責任を負っていることの両方により、不当に重い負荷を背負わされている。しかも、 HIV/ エイズにまつわるスティグマ（社会的汚名・恥辱）があまりに強いため、予防法や治療やケアを求めて保健機関に行くことをためらっている。

蔓延の実態が深刻なことから何か手を打とうと、 HIV/ エイズ日本信託基金 (JTF) が 2000 年に国際家族計画連盟 (IPPF) の中に設置され、アジアとアフリカの加盟協会が実施する HIV 予防事業を支援することになった。この基金の資金は全額、日本政府が拠出している。今日まで、同基金はアフリカ全域の 23 カ国で実施されたプロジェクト 41 件に資金を供与してきた。

プロジェクト

ケニア

若くて、元気で、親しみやすい – キスム地区の青少年が利用しやすい VCT サービスの促進

キスム地区の若者たち

アフリカの青少年は、HIV による重荷を背負っているが、彼らは必ずしも HIV に対して十分対処できない状況にある。多くの場合、若い世代には、HIV の予防サービスを利用したり、情報を入手したりする資金も技能もない。さらに、青少年に対する偏見と差別があって、一般のサービスの多くは「若者が利用しやすい」と認識されることはなく、青少年たちに特有なニーズに配慮したものでもない。

この問題に取り組もうと、ケニア家族計画協会 (FPAK) では青少年向けのプロジェクトの企画・実行に彼ら自身を巻き込んだ。このプロジェクトでは、青少年が利用しやすい自発的に受けるカウンセリングと抗体検査 (VCT) サービスを実施するのにさまざまな方法や活動をしている。そのなかには若者のピア・エデュケーター（仲間同士の教育者）、キスムにある FPAK 診療所での若い人専用の情

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

JTF は、 1) 予防にケアと支援を組み合わせる、 2) 感染に対して無防備なグループを対象にする、 3) 青少年たちを対象とする、の 3 つのテーマに力点をおいている。これまでに JTF の資金で実施したプロジェクトは、それぞれの国の要件や地域ごとの蔓延の形態の違いにより、規模、内容ともに多岐にわたっている。このような多種多様な方法をとっていることが、 IPPF と JTF の合同プロジェクトが成功しており、アフリカの人々特有のニーズに対応している要因である。

JTF プログラムが担っている重要な領域に、情報とサービスのギャップを埋めることがある。JTF プログラムは行動変容に向けた情報を提供するだけでなく、最も無防備な層の人たちが HIV 予防やケアのサービスを受けられるようにするため、情報とサービスをつなげることもしている。 JTF のアフリカでのプログラムの中心は、 HIV 感染の危険にさらされやすい人々を対象とすることであり、特に若い女性・少女、学校に行っていない若者、それに HIV/ エイズとともに生きている人たちに重点をおいている。社会通念、法的な障壁、またはサービスを受ける場所に行く交通費が出せないなどの要因を含め、サービスを受けるのを阻む壁がいくつもある。感染に無防備な層の人たちと、サービスや感染を防ぎ、ケアを利用するのに必要な情報との間にある溝をなくすことがアフリカでの蔓延を食い止めるのには必須である。

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

報窓口の設置、コンドームの販促と配布、および検査を受けて HIV 陽性と判明した若者たちを支援する「イエス・クラブ」についての情報の提供がある。

キスム地区の若者たち

対象となった青少年たち中间の影響は驚異的だった。 4000 人以上の若者にエイズ情報を伝えた。ラジオやテレビが最も魅力的な伝達手段として活躍し、 VCT や HIV/ エイズ予防に関するビデオの上映会には多くの若者が参加した。その多くは、プロジェクトを実施しているところに再び足を運び、活動に参加したり、ピア・エデュケーターに相談をもちかけたりした。

プロジェクトの成功の鍵は、青少年が診療所に気軽に来られるような雰囲気をつくったことにある。その結果、思春期と若い成人合わせて 1800 人が VCT サービスを受け、 1000 人以上がセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・サービスを利用した。「イエス・クラブ」がこの事業を手伝い、社会心理的支援を提供し、偏見や差別のない友好的なサークルづくりをした。ここでは、青少年たちが自分たちの経験を話し、青少年たちが自分たちの年齢に対する暗いイメージを変えている。これにより、若者についての前向きなイメージをこれからの世代にも伝えることを目指している。

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

JTF は、 1) 予防にケアと支援を組み合わせる、 2) 感染に対して無防備なグループを対象にする、 3) 青少年たちを対象とする、の 3 つのテーマに力点をおいている。これまでに JTF の資金で実施したプロジェクトは、それぞれの国の要件や地域ごとの蔓延の形態の違いにより、規模、内容ともに多岐にわたっている。このような多種多様な方法をとっていることが、 IPPF と JTF の合同プロジェクトが成功しており、アフリカの人々特有のニーズに対応している要因である。

JTF プログラムが担っている重要な領域に、情報とサービスのギャップを埋めることがある。JTF プログラムは行動変容に向けた情報を提供するだけでなく、最も無防備な層の人たちが HIV 予防やケアのサービスを受けられるようにするため、情報とサービスをつなげることもしている。 JTF のアフリカでのプログラムの中心は、 HIV 感染の危険にさらされやすい人々を対象とすることであり、特に若い女性・少女、学校に行っていない若者、それに HIV/ エイズとともに生きている人たちに重点をおいている。社会通念、法的な障壁、またはサービスを受ける場所に行く交通費が出せないなどの要因を含め、サービスを受けるのを阻む壁がいくつもある。感染に無防備な層の人たちと、サービスや感染を防ぎ、ケアを利用するのに必要な情報との間にある溝をなくすことがアフリカでの蔓延を食い止めるのには必須である。

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

モザンビーク

男性、鉱山、神話

マグドの鉱山地域での HIV/ エイズとともに生きる人々 (PLWHA) に対するスティグマ (社会的汚名・恥辱) と差別を軽減する

スティグマ（社会的汚名・恥辱）と差別は HIV/ エイズの蔓延につきまとう反応である。このために、個人の生活が情緒的にも社会的にも困難になるだけでなく、人々に予防を呼びかけ、陽性者に治療やケアを提供する側にも妨害となる。

IPPF の加盟協会であるモザンビーク家族計画協会 (AMODEFA) は、 HIV/ エイズの陽性者・患者とその影響を受けた人たちの生活の質の向上を目指した。モザンビークのマプト州マグド地区で暮らす鉱山労働者とその家族の間スティグマ（社会的汚名・恥辱）と差別を軽減することに焦点を当てた。同協会の活動の中心は、在宅ケア、情報・教育・伝達 (IEC)、地域の結集と教育集会、研修と問題意識づくり、コンドーム配布と地元の保健施設への照会サービスであった。



キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

地域社会に HIV/ エイズ意識を高める活動を持ち込もうと、 AMODEFA はそこのリーダーたちに接触し、 HIV 陽性者に対する社会的・文化的な姿勢に対して異を唱えた。さらに地元の活動家と共に教育活動を実施し、コンドームを配布して HIV 感染の影響を受けた人々に向けた活動をした。さらに、ボランティア、看護師、世帯主にカウンセリングと在宅ケアの仕方の訓練を受けてもらった。 HIV 陽性者が自宅にいて基本的ケアを受けられるようにする在宅ケア・セットの配布は、このプログラムの重要な部分である。

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

スタッフとボランティアの訓練と地域の人々の意識づくりと参加動員を組み合わせることで、 HIV/ エイズに関する意識と知識を高めることにつながった。これが鉱山地区の偏見と差別を減らすのに役立ったのである。住民がいるいろいろな予防戦略やウイルスの感染経路を知るようになって、 HIV/ エイズとともに生きる人々 (PLWHA) にこれまでよりずっと友好的に、また親しく接するようになった。この結果、 PLWHA は、家族、友人、それに地域社会の人たちから支援を受けるようになった。

ウガンダ

手を差し伸べよう

ウガンダ・イガンガ地区の無防備でサービスや情報を行き届かせにくい若者に向けた HIV/ エイズ予防

ウガンダはエイズ蔓延の規模をなんとか縮小している国の良い例と見られている。このような称賛



キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

に値する成功にもかかわらず、この国の感染率は依然として 6.5% の高い率のまま停滞している。この停滞は、都市と農村で短期的な仕事を渡り歩いたり、学校に行っていない若者たちのような HIV 感染に無防備な人々の間で最も際立っている。

キスム地区の若者たち

このような状況から、ウガンダ家族計画協会 (FPAU) は、これらの無防備な層を相手に情報とサービスのギャップを埋めるプロジェクトの実施を決めた。プロジェクトはイガンガ地区を中心に行っている。ここはグレート・ノース・ロードとトランス・アフリカ・ハイウェイの交差する町で、短期的な仕事に従事する人が多い地区である。より安全なセックスについて知識を広め、合わせて HIV/ エイズ予防製品と関連サービスの利用者を増大させることに活動の中心をおいている。

キスム地区の若者たち

FPAU はラジオ番組やビデオ上映会を通して、また職場での話し合いを主催してメッセージを広め、地元の言葉で情報と資料を配った。ピア・エデュケーターには活動範囲を広げてより多くの人に接してもらうため、自転車を提供した。アウトリーチ活動は、市場、商業センター、タクシーのたまり場など、短期的な仕事につく青少年たちが集まる場所に的を絞って実施した。

キスム地区の若者たち

メッセージと情報を伝達することに成功したことで、所期の成果を達成した。 HIV/ エイズサービスの利用者が増加したのである。 VCT を受けたのは 600 人、性感染症 (STI) の検査を受けた人は 800 人に上った。 FPAU の診療所に行くように勧めた件数は 2000



キスム地区の若者たち

件を超えた。さらに、コンドームの需要がプロジェクト開始前の月当たり 500 個から、意識づくりワークショップの後は月当たり 2500 個、さらにピア・エデュケーターの養成後には一挙に月当たり 2 万 5000 個に増えた。プロジェクト期間を通して配布されたコンドームは総計で 15 万個に達した。

ガーナ

積極的な刑務所

クマシ中央刑務所の受刑者間での STI 性感染症と HIV/ エイズ予防

キスム地区の若者たち

キスム地区の若者たち

HIV の影響は、さまざまな社会集団の間で異なり、それぞれの集団が感染に対する危険度を増している。なかでも刑務所は受刑者の間で HIV 感染の危険が増大する要因をいくつももった環境である。薬物使用、ピア・プレッシャー、レイプないし性的いやがらせの危険、さらに受刑者間でのこのような危険から自己防衛せざるを得なくなる対人関係がある。加えて、受刑者は社会から白い目でみられることから、彼らはますます除けられる傾向がある。

キスム地区の若者たち

ガーナ家族計画協会 (PPAG) はガーナのクマシ地方にある刑務所に予防とケアを導入した。プロジェクトでは STI 治療と VCT のサービスの利用拡大を目ざし、特に若い受刑者たちの間に HIV/ エイズの知識を広め、 STI の発生を減らすことを目ざした。

キスム地区の若者たち

プロジェクトを通して、刑務官たちの能力向上に努め、若い受刑者向けに STI や VCT サービスを受けやすくした。いろいろな活動